

平成 25(2013)年度

年次報告書



日本橋学館大学

平成25年度年次報告書

目 次

1. 建学の精神	2
2. 沿革	3
3. 学事関係	4
4. 教育研究組織	4
5. 法人役員・評議員・教職員の概要	4
6. 教育活動	5
6-1 教育課程	
6-2 3学科の教育目的	
6-3 クロスオーバー履修制度	
6-4 少人数教育	
6-5 初年次教育	
6-6 「ゼミナール」の目的と目標	
6-7 教職課程	
6-8 学芸員課程	
7. 研究活動	10
7-1 教員の研究業績	
7-2 研究・委員会活動	
7-3 研究所・センター・その他	
8. 学生	10
8-1 学部・学科の学生定員および在籍学生数	
8-2 留学生支援	
8-3 支援制度	
8-4 健康相談、心的支援、生活相談等	
8-5 就職・進学支援	
8-6 卒業生の進路	
9. 学生のクラブ・同好会活動等	17
10. 社会的活動	18
10-1 生涯学習支援センター	
10-2 大学コンソーシアム東葛	
10-3 図書館関係	
10-4 日本橋学館大学協力会	
10-5 出張授業・講義体験	
10-6 地域における活動	
11. 募集活動	20
11-1 「大学説明会」の開催	
11-2 学長による高等学校訪問	
11-3 本学専任教員による高等学校訪問	
11-4 オープンキャンパスの開催	
11-5 入学試験の実施	
12. 管理運営	22
12-1 校地、校舎等の面積	
12-2 講義室、演習室、学生自習室等の概要	
12-3 管理運営体制	

1. 建学の精神

本学を経営する「学校法人日本橋女学館」（以下、本法人という）の母体は、明治22（1889）年に設立された「日本橋区教育会」である。この「日本橋区教育会」が、明治37（1904）年に「日本橋女学校」（後に「日本橋高等女学校」）を設立し、明治38（1905）年から日本橋地区の子女の教育を開始した。この年の「日本橋女学校」の開校式で、初代校長・浦田治平の示した教育方針が「質実穩健」という言葉に集約されている。以来、二三の組織変更はあったものの、この「質実穩健」は本法人の「建学の精神」として今日まで受け継がれてきている。すなわち、大正4（1915）年に「日本橋区教育会」は「財団法人日本橋女学館」として独立し、その「設立寄附行為」第1条に、「本財団は、質実穩健なる学風の下に、日本橋区女子教育の普及発展を図るを以て目的とす」と規定している。

また、昭和23（1949）年には学制の改革により、「日本橋高等女学校」は「日本橋女学館中学・高等学校」となり、昭和26（1951）年には「財団法人日本橋女学館」を「学校法人日本橋女学館」へと組織変更しているが、「学校法人日本橋女学館寄附行為」第2章第3条においても、「この法人は、教育基本法及び学校教育法並びに私立学校法に従い、質実穩健なる学風のもとに学校教育を行い、社会に有用な人材を育成することを目的とする。」と規定して、「建学の精神」としている。

本法人は、昭和62（1987）年に80年の女子教育の伝統を生かし、当時の社会的要請に応えるため「日本橋女学館短期大学」を、現在の千葉県柏市に設置して、数多くの優れた卒業生を輩出してきた。その後、高等教育の高度化・多様化・個性化、科学技術の国際化・情報化や生涯学習社会への移行など、激変する時代に十分に対応できる人材育成を企図して、平成12（2000）年に女子短期大学を男女共学の4年制大学へと全面改組し、その名称も「日本橋学館大学」に改めて、新たなスタートを切っている。

本学の「学則」第1章・総則の第1条（目的）には、次のように記されている。

日本橋学館大学は、学校法人日本橋女学館草創の精神に則り、質実穩健の人格を育成し、総合的創造的な学術技術を研究教授して、社会においてこれを躬行実践、気品知徳の模範として指導的役割を果たす人材を育成するとともに、広く国際社会全体の平和と文化の発展に寄与することを目的とする。

このように、「寄附行為」及び「学則」にも謳われている本法人の「建学の精神」〈質実穩健〉は、明治38（1905）年に行われた「日本橋女学校」の開校式における校長訓示以来、100年以上にもわたって継承されてきた。しかしながら、時代の変化とともに、「建学の精神」も常に問い直されなくてはならない。平成18（2006）年12月に教授会の下部組織として発足した「将来計画委員会」では、本学の教学上における基本的な問題として、「建学の精神」の現代的意義、大学の「基本理念」及び「使命・目的」等を、1年余りをかけて慎重に検討した。その結果、〈質実〉とは「生活態度に飾り気がなくて真面目なさま」、〈穩健〉とは「考え方などが偏らず常識的である様子」等の辞書的な定義から出発して、最終的には〈質実穩健〉の現代的意義を、次のように定義することとした（平成19（2007）年7月18日、教授会承認）。

「質実」とは、人の暮らしや行動に派手さがなく、内容が堅実であること。すなわち、「質実」な生活を支えるための実学の伝承及び社会人としての基礎力の育成を目指している。「穩」は、心の有り様が「穩」やか、安らかなこと。「穩」やかな精神を育む、バランスのとれた幅広い教養と感性の教育を目指している。「健」は、身体が丈夫なこと。「健」やかな肉体、及び活力ある個性を育てることを目指している。

更に、〈質実穩健〉な人材の育成に要する「教育内容」として、〈質実〉であるためには「実学」を修得して専門性を高めること、〈穩健〉であるためには「教養」を身に付けることが必要であるという認識に到達した。ここから、本学の目指す教育研究上の「基本理念」は、「実学と教養を2本柱とする人間教育」とすることとし、「使命・目的」を「社会に貢献できる高い人間力を有した人材を育成すること」と定めたのである。

平成21（2009）年4月より、本学は「建学の精神」である〈質実穩健〉の現代的意義を踏まえた改組再編の結果として、従来の「人文経営学部」に代わって、「リベラルアーツ学部」を発足させている。その「教育目標」としては、「基礎力を固め、専門性を高めつつ、幅広い教養を身に付けること」

を掲げている。そのために、「教育内容・教育方法」の大幅な改善を図り、「初年次教育」・「少人数ゼミナール」・「クロスオーバー履修」等の特色ある「教育システム」を構築しつつある。究極的には、「人間力」（社会で生き抜く力、すなわち「社会人基礎力」）を培うことを目指している。

2. 沿革

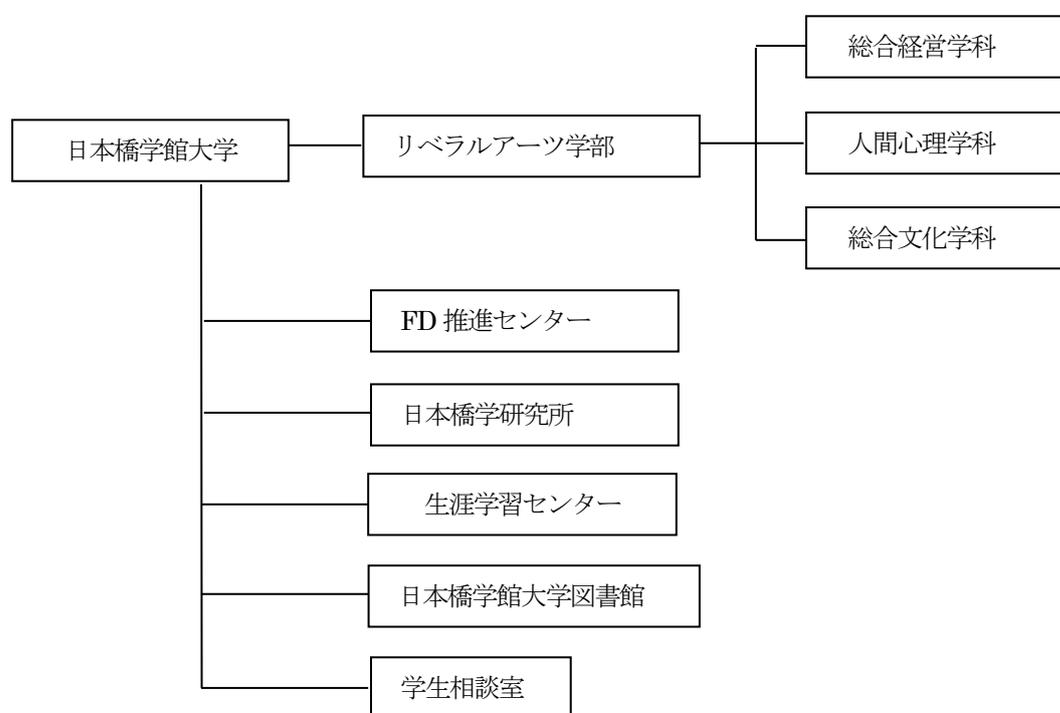
「建学の精神」でも語られているように、本法人は 100 年を越える歴史を持つ。それを母体として育った本大学は、その価値ある歴史と伝統を活かし、一方で、新しい時代に適応する活力を持った大学でありたい。

明治 37(1904)年	(社)日本橋区教育会に対し日本橋女学校(本科定員 140 名、修業年限 4 年)の設立認可
明治 38(1905)年	日本橋蛸殻町第一幼稚園舎で開校式挙行。『質実穩健』の教育方針訓示
明治 38(1905)年	5 月 1 日、第一幼稚園舎で授業開始(創立記念日の起源)
明治 39(1906)年	高等女学校令に基づく私立日本橋高等女学校(4 年制)に組織変更認可(当時、東京府下の高等女学校は府立 4 校を含めて 7 校)
明治 43(1910)年	柳原川岸三号地元千代田小学校跡に移転。修業年限 5 年、定員 400 名に変更
大正 4(1915)年	財団法人日本橋女学館設立認可
昭和 22(1947)年	学制の改革により私立日本橋女学館中学校となる
昭和 23(1948)年	私立日本橋女学館高等学校設置。私立日本橋女学館中学・高等学校と総称
昭和 26(1951)年	財団法人日本橋女学館より学校法人日本橋女学館に組織変更認可
昭和 30(1955)年	創立 50 周年記念事業実施
昭和 40(1965)年	創立 60 周年記念式典(秩父宮妃ご来臨)
昭和 54(1979)年	市川学校園研修センター(寄宿舎、テニスコート、グラウンド)完成
昭和 61(1986)年	日本橋女学館短期大学設置認可。入学定員/秘書科 100 名・英語科 100 名
昭和 62(1987)年	日本橋女学館短期大学開学(初代学長:角井 宏)
平成 7(1995)年	創立 90 周年記念式典
平成 11(1999)年	日本橋学館大学設置認可。入学定員/人文経営学部人文経営学科 250 名
平成 12(2000)年	日本橋学館大学開学(初代学長:小谷津孝明)
平成 12(2000)年	日本橋学館大学開学式、日本橋学館大学第一回入学式
平成 13(2001)年	日本橋女学館短期大学閉学
平成 16(2004)年	日本橋学館大学人文経営学部人文経営学科を 3 学科(人間関係学科、国際経営学科、文化芸術学科)に組織改組
平成 17(2005)年	創立 100 周年記念式典
平成 18(2006)年	第二代学長:横山幸三 就任
平成 21(2009)年	日本橋学館大学人文経営学部をリベラルアーツ学部に変更。3 学科(総合経営学科・人間心理学科・総合文化学科、入学定員 225 人)を設置。教職課程・学芸員課程を設置。
平成 23(2011)年	入学定員 150 名に変更
平成 24(2012)年	第 3 代学長:北垣日出子 就任

3. 学事関係

- ・平成 25 年 4 月 1 日 入学式 (新入生 85 人)
- ・平成 25 年 4 月 2 日～4 日 ガイダンスウィーク
(履修ガイダンス、学生生活ガイダンス、健康診断等)
- ・平成 25 年 4 月 5 日 前期授業開始
- ・平成 25 年 5 月 1 日 創立記念日
- ・平成 25 年 7 月 22 日 前期授業終了
- ・平成 25 年 9 月 12 日 後期授業開始
- ・平成 25 年 10 月 26 日・27 日 柏学祭
- ・平成 25 年 1 月 11 日 後期授業終了
- ・平成 26 年 3 月 20 日 第 11 回卒業式 (卒業生 90 人)

4. 教育研究組織



5. 法人役員・評議員・教職員の概要 (平成 25 年 5 月 1 日現在)

[役員]

職名	氏名	寄附行為上の選任条項
理事長	細田 安兵衛	第7条 第1項 第5号
副理事長	山本 泰人	第7条 第1項 第2号
副理事長	三田 芳裕	第7号 第1項 第2号
常任理事	北垣 日出子	第7条 第1項 第1号

常任理事	揚村 洋一郎	第7条 第1項 第1号
常任理事	藤山 一郎	第7条 第1項 第3号
理 事	塩澤 寛樹	第7条 第1項 第3号
理 事	樋口 君子	第7条 第1項 第4号
理 事	清水 満昭	第7条 第1項 第5号
理 事	梅田 勝利	第7条 第1項 第5号
理 事	岩山 康之	第7条 第1項 第5号
理 事	宮入 正英	第7条 第1項 第2号
監 事	築地 照吉	第8条
監 事	清水 紀美子	第8条

[評議員]

- ・ 寄附行為第 25 条第 1 項第 1 号 (法人の職員) —— (5 名)
揚村洋一郎、北垣日出子、藤山一郎、石原正雄、津川祐一
- ・ 寄附行為第 25 条第 1 項第 2 号 (卒業生) —— (3 名)
樋口君子、宮田栄子、菌部幸子
- ・ 寄附行為第 25 条第 1 項第 3 号 (理事会選出) —— (3 名)
梅田勝利、塩澤寛樹、宮入正英
- ・ 寄附行為第 25 条第 1 項第 4 号 (学識経験者) —— (15 名)
細田安兵衛、山本泰人、三田芳裕、岩山康之、清水満昭、服部一枝、松井厳司、廣田忠勇、清水千枝子、渡辺 昌、木屋幸蔵、池木 清、中村庄八、山田徳兵衛、須長隆一

[専任教職員]

大学教員：34 名 大学事務職員：21 名
 高校教員：26 名 高校事務職員：5 名
 中学教員：11 名 中学事務職員：5 名
 法人本部事務職員：2 名
法人合計：104 名

6. 教育活動

6-1 教育課程

平成 21(2009)年度に教育課程の改定を行った。本年度終了時点で、前カリキュラム(人文経営学部)に所属する学生が0名となったため、前カリキュラムに関する説明は省略し、以下、現カリキュラムについてのみ記すことにする。

教育課程 (学部・学科の構成)

現カリキュラム(リベラルアーツ学部) — 平成 21(2009)年度に改定された教育課程。
 総合経営学科
 人間心理学科
 総合文化学科

学生は入学時から各学科に所属するが、2年次終了時または3年次終了時に希望学科の転科試験に合格した場合、転科することができる。本年度末には4名の転科希望者がおり、3名が合格した。

教育課程編成の概要

共通科目	基礎科目 教養科目 キャリア科目 外国語科目 スポーツ健康科目	補習教育的科目(英語・国語・数学)を含む 1年次必修(第1・第2外国語) 1年次必修を含む	
	専門科目 (各学科)	導入的な科目 各専門の中心科目 発展的な科目 ゼミナールI~IV 卒業研究	1年次 2~4年次 3・4年次 1~4年次必修 4年次必修
			クロスオーバー履修 (他学科も履修可能)

卒業に必要な単位数は以下のとおりであるが、他大学等で修得済みの単位を、原則60単位まで組み込むことが可能である。なお、各学年への進級条件に関する規定はない。

卒業に必要な最低単位数

	総合経営学科・総合文化学科	人間心理学科
共通科目	8(必修)	8(必修)
自学科の専門科目	72 (内、必修20を含む)	74 (内、必修22を含む)
自学科の専門科目 共通科目 他学科の専門科目(注)	46	46
合計	126	128

(注)クロスオーバー履修制度により、他学科の専門科目(ゼミナール・卒業研究を除く)の修得単位数を、選択科目として組み込むことができる。

本学で、指定科目を履修することによって取得できる資格は、次のとおりである。

取得できる資格

資格	主たる対象学科
秘書士、上級秘書士、上級秘書士(国際秘書)	総合経営学科
情報処理士、上級情報処理士	
カウンセリング実務士	人間心理学科
認定心理士	
中学校教諭一種免許状(英語・国語・社会)	総合文化学科のみ
高等学校教諭一種免許状(英語・国語・公民)	
学芸員	全学科(クロスオーバー履修)

6-2 3学科の教育目的

【総合経営学科】

企業経営の基本となる経営管理・会計・秘書・ITや、近年課題となっている健康・スポーツなどについて、理論的・実践的な専門性を身に付けるとともに、これらを社会で役立てられる実践力、ビジネスにおける効率的な組織運営や迅速で的確な意思決定にとって必要不可欠なITスキルをベースとした情報力やコミュニケーション力、社会人の基礎力を育成する。

【人間心理学科】

人間を見つめる心理学的素養とカウンセリングマインド、客観的思考を可能とする科学的素養を持ち、社会人として豊かな人間関係を築ける人材、心理学的視点で人間・社会を見つめる力を持つ人材を育てる。具体的には、基礎心理学、臨床心理学、医療・保健・福祉に及ぶ豊富な専門科目に支えられた心理学的素養を持つ人材、臨床家を育成する。

【総合文化学科】

日本や外国の文学・言語・美術・音楽・演劇・民俗・歴史・教育など、人間が生み出した文化についての専門的で総合的な理解を身に付け、あわせて人間の社会的活動を科学的視点からとらえることができるような人材を育成する。

6-3 クロスオーバー履修制度

本学の教育課程における独特な制度として、クロスオーバー履修制度があり、幅広い教養人育成のために設けられている。この制度は、開学以来のものであり、他学科の専門科目（ゼミナール・卒業研究を除く）の自由な履修・単位取得(卒業要件に算入)を認めている。

6-4 少人数教育

本学は、小規模大学である上に、幅広い教養教育を行っているため、すべての科目において少人数のクラス編成となっている。履修者数の上限は、次のように設定している。

履修者数の上限（原則）

科目区分	履修者数の上限
情報機器科目	30人
演習・実習科目	30人程度
講義科目	60人程度

6-5 初年次教育

平成15(2003)年以降、新入生全員を対象に、大学という新しい環境に適応できるようにするために、専任教員による指導を充実させてきた。現カリキュラムでは「ゼミナールI」（1単位・必修）が中心となる。ここでの指導は、学生が所属する学科の専任教員が担い、担当教員1名につき8名前後の学生を対象として行われる。具体的活動としては、履修指導、基礎学力の育成、図書館オリエンテーション等を実施し、学生生活全般にわたった指導を行うとともに、学生間の親睦もはかっている。（下記6-6参照）

初年次の第1外国語科目（英語・フランス語・ドイツ語・中国語の1種類が選択必修）については、同一教員が週2回の授業を行うことで基礎力の充実をはかっている。その中でも英語科目に関しては、入学時に行う基礎力テストに基づく習熟度別クラスを編成している。

また、初年次教育につなげる前提として、入学前教育を行っている。これは入学予定者に課題作文を課し、提出された作文に対して、専任教員が指導・相談を行うものである。

6-6 「ゼミナール」の目的と目標

「ゼミナール」は、少人数クラス編成によって専任教員による丁寧な指導がなされており、1年次から4年次まで通年の必修科目となっている。その目的と目標は以下のとおりであるが、1年次と2年次には、学習面に加えて大学生活全般にわたる指導も行い、3年次と4年次には、「卒業研究」につながる専攻分野の教育を主として行っている。

各年次のゼミナールにおける目的と目標は、以下のとおりである。

ゼミナール	目的	目標
I (1年次)	大学における学習活動の基礎を作る	新たな環境である大学生活への適応 図書館での図書資料の検索 レポートの作成
	学習習慣の定着化	意欲的に授業に出席し、理解し、わからないことを質問できる姿勢
	コミュニケーション能力を培う	教員や友人との信頼関係の構築
	自己表現力を培う	自己紹介などの自己表現練習
II (2年次)	専攻分野の選択へ向けた準備	専攻分野の把握と自己の興味の確認
	問題解決能力の基礎を培う	問題点の指摘
	社会生活を営むための姿勢を培う	社会常識の理解、実践
III (3年次)	専攻分野の研究の基礎を培う	専攻分野の基礎の理解 専攻分野の必要資料などの検索 論理的思考力の育成
	将来を展望する	進路と人生の目標の探求
IV (4年次)	専攻分野に対する深い理解	専攻分野における問題発見、解決、まとめ、発表 卒業研究の完成
	将来を展望する	進路についての明確な目標を持つ

このような目的・目標を達成するために、ゼミナール担当教員は、学習支援に加えて、次の役割等を担っている。

- ・学生が履修科目を選択する際の相談・指導と履修登録の際の確認
- ・履修単位数の少ない学生や欠席の多い学生に対する相談・指導
- ・各種資格取得を求める学生への支援
- ・学生の進路に関する、キャリアセンターと連携した指導
- ・大学からの必要に応じた学生への連絡
- ・学生の個人的なさまざまな相談・指導

6-7 教職課程

リベラルアーツ学部への改組に合わせて教職課程を設置することとなり、文部科学省の認可を受けて平成21(2009)年度より運用を開始している。

- ・教育実習、介護等体験、教員就職支援などの必要な活動について随時準備を進め、学年ごとに定期的に年数回のガイダンスを実施し、指導にあたっている。
- ・各学期終了後に「履修カルテ」を提出させ、学生自身による振り返りとともに、教員による指導の一助としている。
- ・教職課程の登録は、2年次進級時に行う。1年次には、全学科の共通科目として設定されている「学校と教育の歴史」「心身の発達と学習過程」「学校の制度」を随意に履修して、学校教育および教職についての関心を高め、学生自らの志向や適性を確認してから教職課程に登録することを推奨している。なお、上記3科目は「教職に関する科目」に算入される。

教職課程の設置学科および取得可能な免許状

総合文化学科	中学校教諭一種免許状（英語） 高等学校教諭一種免許状（英語）
	中学校教諭一種免許状（国語） 高等学校教諭一種免許状（国語）
	中学校教諭一種免許状（社会） 高等学校教諭一種免許状（公民）

教職課程の履修要件(注)

免許状の種類	基礎資格	教科に関する科目	教職に関する科目	教科又は教職に関する科目	合計
中学一種	学士の学位を有すること	20 単位	31 単位	8 単位	59 単位
高校一種		20 単位	27 単位	16 単位	63 単位

(注) 教育職員免許法施行規則等に定める必要単位数。このほか教育職員免許法施行規則 66 条 6 により「暮らしのなかの憲法」「スポーツ実技 I・II」「外国語 (1 科目)」「情報機器の操作 I・II」の修得が必須となる。また中学一種の取得のためには「介護等体験」が義務づけられる。

6-8 学芸員課程

教職課程と同じく、リベラルアーツ学部への改組に合わせて学芸員課程を設置することとなり、文部科学省の認可を受けて平成 21 (2009) 年度より運用を開始している。

主として総合文化学科に置かれている正規の授業を受講しながら、同時に、学芸員課程として規定されている単位を修得すれば、学芸員の資格を取得できるシステムを採用している。総合経営学科および人間心理学科の学生も、クロスオーバー履修を活用して同資格を取得することが可能である。

- ・定期的に年数回のガイダンスを実施し、指導にあたっている。
- ・学芸員課程の登録は 2 年次に行う。
- ・学芸員資格の取得に必要な科目は、以下の①必修科目および②選択科目の両方である。これらの科目はすべて卒業単位数に算入できる。

① 必修科目 (博物館法施行規則 1 条 1 に定める「博物館に関する科目」として以下の必修科目を設置している)

2011 年度までの入学者 (15 単位)	2012 年度以降の入学者 (19 単位)
生涯学習論	生涯学習論
博物館概論	博物館概論
博物館経営・情報論	博物館経営論
博物館資料論	博物館資料論
博物館実習	博物館資料保存論
視聴覚メディアと教育	博物館展示論
学校と教育の歴史	博物館情報・メディア論
	博物館教育論
	博物館実習

② 選択科目

「文化史」「美術史」「民俗学」の 3 分野 (総合文化学科の専門科目および全学科の共通科目として設置) のうち、2 分野以上から 8 単位以上の選択科目を修得。

7. 研究活動

7-1 教員の研究業績

本学専任教員の研究業績については本学ウェブサイトの下記ページに掲載されているので参照のこと。

総合経営学科 <http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/kyouin#keiei>

人間心理学科 <http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/kyouin#shinri>

総合文化学科 <http://www.nihonbashi.ac.jp/gakubu/kyouin#bunka>

7-2 研究・委員会活動

平成 25 (2013) 年度における教員の研究・委員会活動については次のとおりである。

- ・『紀要』第 13 号を刊行した。(原著論文 4 点、研究ノート 3 点)
- ・科学研究費補助金(日本学術振興会交付分)の交付を受けた研究は次のとおりである。(研究代表者・五十音順に記載)
 - ① 「南アジアにおける密教の展開 —『ヴァジュラダーカ・タントラ』原典研究— 研究代表者：杉木 恒彦教授 (2012 年度よりの継続)
 - ② 「親子相互作用査定尺度 JNCATS に基づく次世代センシティブ支援ネットワークの構築」研究代表者：寺本 妙子准教授 (2012 年度よりの継続)
 - ③ 「SWAP-200 の日本語版作成と日本における有用性の検証研究」研究代表者：鳥越淳一准教授

7-3 研究所・センター・その他

平成 25 (2013) 年度の研究所・センター等における活動は以下のとおりである。

- ・「FD 講演会」を平成 25 年 12 月 1 日に「障害のある学生(指導の難しい学生)に対する教員側の対応について」という演目で実施した。
- ・学生を対象に「授業アンケート」「WEB アンケート」を実施した。
- ・教職員を対象に「授業公開」を実施した。

8. 学生

8-1 学部・学科の学生定員および在籍学生数

平成 25 年 5 月 1 日現在

学部・学科		入学定員	編入学定員	収容定員	在籍学生総数	在籍学生数			
						1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
						学生数	学生数	学生数	学生数
リベラルアーツ学部	総合経営学科	65	5	300	158	31	30	50	47
	人間心理学科	40	5	170	120	29	30	35	26
	総合文化学科	45	5	235	122	25	31	26	40
リベラルアーツ学部合計		150	15	705	400	85	91	111	113
人文経営学部	人間関係学科	—	—	—	3	—	—	—	3
	国際経営学科	—	—	—	1	—	—	—	1
	文化芸術学科	—	—	—	0	—	—	—	0
人文経営学部合計		—	—	—	—	—	—	—	—
合 計		150	15	705	404	85	91	111	117

平成 25 年度志願者および入学者の出身高校の地域別人数と割合

		志願者数 (人)	全志願者に対する 割合 (%)	入学者数 (人)	全入学者に対する 割合 (%)
リベラル アーツ学部	千葉県	32	44.4	26	44.1
	北海道	0	0.0	0	0.0
	東北	4	5.6	3	5.0
	関東	30	41.6	26	44.1
	甲信越	2	2.8	1	1.7
	北陸	0	0.0	0	0.0
	東海	2	2.8	2	3.4
	近畿	0	0.0	0	0.0
	中国	0	0.0	0	0.0
	四国	1	1.4	1	1.7
	九州・沖縄	1	1.4	0	0.0
	その他*	0	0.0	0	0.0
	合計	72	100	59	100

*その他：外国の学校を卒業した者、高等学校卒業程度認定試験等の合格者

8-2 留学生支援

入学時の留学生オリエンテーションにおいて、「留学生の手引き」を配付し、学生委員長から説明を行った。

経済的支援については、成績と登校状況の良い留学生を対象に、予算の範囲内で授業料の一部免除を行った。同時に、不登校気味の留学生には、ゼミナール担当教員と学生担当部署で連携を取り、面談等を行った。

また、10月5日（土）に日光への研修旅行を実施した。6名の留学生と日本人学生が参加した。宝物館入館を含む日光東照宮の見学の後、日光彫り体験を行い、留学生と日本人学生の国際交流・文化交流を深めることができた。

8-3 支援制度

学生に対する経済的な支援として、本学独自の制度を設けている。加えて、日本学生支援機構の第一種・第二種奨学金や、私費外国人留学生学習奨励費、地方公共団体や民間団体の奨学金、国の教育ローン等外部資金の情報も学生に提供しており、充実した奨学金制度が活用されている。

なお、本学独自の支援制度は以下のとおりである。

支援の名称	備考
日本橋学館大学学生に対する住宅費補助	遠隔地出身者で一人暮らしの者に補助（年額 25 万円） 留学生は除く
日本橋学館大学私費外国人留学生奨学金	学業、出席状況、経済状況を考慮して選考し、授業料の一部を免除
日本橋学館大学私費外国人留学生住宅費補助	入学時に住宅を賃借する際、一時金として月額家賃の 3 ヶ月分（上限 10 万円）を補助

日本橋学館大学特待生奨学金	学業、経済状況等を考慮して選考し、授業料の一部を免除 留学生は除く
日本橋学館大学スポーツ・文化 芸術特待生	活動実績に応じて、授業料の一部を免除
兄弟・姉妹の入学者に対する減 免制度	本学に兄弟、姉妹が在学している入学者対象。 入学金半額免除
地元高等学校出身者に対する 減免制度	地元高校出身の入学者対象。入学金半額免除
日本橋女学館内部進学者奨学 金	併設校卒業の入学者対象。入学金、または入学金・学費の一部免除
留学生特待生	勤勉で高い日本語能力を有し、特待生入試（留学生）で合格した留学生
日本橋学館大学有資格者入学 金減免制度	本学が指定した資格を有する、推薦入試合格者対象。入学金全額免除

8-4 健康相談、心的支援、生活相談等

学生の心身の健康と健全なる生活のために、以下の窓口や施設等を設置して、さまざまな相談に適切に応じられるように努めている。

なお、新入生に対しては、入学直後にガイダンスを実施し、学生生活、防災、学生相談室等についての説明を行った。防災、学生相談室については独自のパンフレットを作成し配付した。

・保健室

看護師が学生からのさまざまな健康相談を受け、必要に応じて、学生相談室カウンセラーや学校医と連携を図っている。

また、新入生については、入学直後のガイダンス時に「保健調査票」を記入させ、学生の健康状態を把握し、相談時の参考資料として活用している。

保健室利用者状況

所見あり ※病気、怪我、メンタルヘルスの主訴が明確な学生

単位：人

学年 在籍者数	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	計	比 率 (%)	
		月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月			
1年 85人	男	11	13	19	23	0	4	13	9	7	4	1	104	155	28
	女	4	5	6	5	0	4	13	9	3	2	0	51		
2年 91人	男	6	5	11	8	0	1	12	9	8	0	1	61	124	23
	女	3	11	10	9	0	3	10	9	7	1	0	63		
3年 111人	男	11	19	12	22	0	6	11	16	5	2	0	104	141	26
	女	5	8	5	3	0	3	3	7	1	2	0	37		
4年 117人	男	13	9	7	16	0	6	14	17	15	1	0	98	129	23
	女	5	4	5	4	0	1	6	3	3	0	0	31		
計404人		58	74	75	90	0	28	82	79	49	12	2	549		100

症状別

単位：件

症状・疾患名		件数	計
外科	筋肉痛	40	211
	捻挫	20	
	打撲	11	
	切り傷	86	
	その他	54	
内科	頭痛	66	419
	腹痛	74	
	咳・くしゃみ咽頭痛	127	
	発熱	14	
	その他	138	
計		630	

所見なし ※病気、怪我などの主訴が特にならない学生

単位：人

学年 在籍者数	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	計	比率 (%)	
		月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月			
1年 85人	男	13	13	9	9	0	1	35	0	3	1	0	84	148	21
	女	9	4	6	16	0	0	21	3	4	1	0	64		
2年 91人	男	11	8	27	63	1	9	31	15	4	1	1	171	235	33
	女	2	1	8	8	2	4	23	10	6	0	0	64		
3年 111人	男	20	31	17	9	0	7	20	8	5	4	0	121	168	24
	女	0	6	2	5	0	8	17	5	1	3	0	47		
4年 117人	男	11	5	10	12	0	0	16	8	2	0	0	64	154	22
	女	11	11	13	10	1	3	29	8	3	1	0	90		
計404人		77	79	92	132	4	32	192	57	28	11	1	705		100

・学生相談室

学生生活における不安・悩み・疑問などについて、心理カウンセラー（非常勤の臨床心理士3人）とピアカウンセラー（非常勤の本学卒業生1人）、本学の人間心理学科所属の専任教員（2人）が、週4日交替で「学生相談室」を開室し、相談に応じている。

今年度より、メールによる相談申込み（予約受付）を開始した。

また、火曜日と木曜日の昼休みはサロンとして開放し、昼食をともに取る、音楽サロンを開き皆でセッションする等の活動も行っている。

学生相談室利用状況

単位：件（人）

学年 (在籍者数)	月別利用件数									計
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	
1年 85人	6(4)	10(13)	5(4)	2(2)	0	0	0	0	0	23(23)
2年 91人	0	4(1)	5(2)	6(3)	6(3)	7(2)	8(6)	6(3)	2(2)	44(22)
3年 111人	14(6)	8(5)	12(4)	9(3)	8(5)	14(5)	14(5)	10(5)	5(5)	94(43)
4年 117人	7(4)	3(3)	4(1)	8(5)	5(4)	5(3)	4(2)	3(2)	0	39(24)
保護者	0	0	0	4(3)	1(1)	0	0	0	0	5(4)
その他	0	0	1(1)	0	0	0	0	0	0	1(1)
計 404人	27(14)	25(22)	26(11)	25(13)	19(12)	26(10)	26(13)	19(10)	7(7)	200(112)

相談内容

単位：人

	学業	進路	生活	心理	その他	合計
1年	1	0	3	20	2	26
2年	0	2	0	44	0	46
3年	1	6	34	56	0	97
4年	1	0	5	35	0	41
保護者	0	0	0	5	0	5
その他	1	0	1	0	0	2
合計	4	8	43	160	2	217

学業：履修・留年・休学・研究・教職など

生活：健康・課外活動・家庭・経済など

進路：大学院・専攻・就職・人生など

心理：精神衛生・性格・対人関係など

・教員によるサポートアワー制度

専任教員により、週に複数回、各教員の研究室で、決められた時間帯にサポートアワーを設け、訪問してくる学生に対する各種相談を行っている。

・「学長に提案！」

学生が大学に対して希望や要望などを、より容易に伝えることを可能にするために、前年度までの「提案箱」という名称を「学長に提案！」に改め、掲示を通して学生の間に浸透させた。

8-5 就職・進学支援

・キャリアセンターの取り組み

学生に対する就職・進学支援は、キャリアセンター、キャリア委員会、ゼミの担当教員の全学的な取り組みで行われている。毎月のキャリア委員会では、求人状況、内定状況、支援講座等への出席状況の分析を行い、教授会で委員会報告を行い、本学の進路体制の統一性を維持している。また、各学科会議において、キャリア委員が各学科の進路問題に対処している。

3年次を対象とする「個人登録カード」による進路調査を起点に、ゼミの担当教員、キャリア委員、キャリアセンター職員から相談・助言できる体制を構築している。キャリアセンターでは、「個人登録カード」をもとに学生の名前と顔を一致させ、学生の顔が見える face to face の対応を心掛け、学生の個別就職相談に応じる体制を整えている。平成25年度は68名の就職希望者に対する年間の相談・指導実績は延べ774件であった。また、「進路支援セミナー：学内合同企業説明会」（5/24, 6/13, 7/11, 12/4, 1/22 計5回実施）、「就職支援講座」（5/10, 6/19, 6/26, 7/3, 11/12, 11/29, 12/4, 1/22 計8回実施）の出席学生状況とその感想記録、SPI模擬テストの結果、適性検査の結果等、指導上有効に活用できる資料を常備して、当該学生の相談・助言の際の資料としている。

上記に加えて、3,4年生を対象にキャリアカウンセラーによるキャリア相談を実施し、延べ140名の学生が利用した。また4年生を対象にハローワークのジョブサポーターによる就職相談を長期休暇期間を含む毎週2回学内にて開催し、延べ313名の学生が利用した。さらに、保護者向けに「保護者対象進路個別相談会」を6月15日（土）に実施した。

・キャリア教育の充実

文部科学省の大学設置基準の改正に合わせて、キャリア教育全体の充実を図っている。特に、1年次より共通科目として「キャリアデザイン」科目を開講し、各学年のゼミとも連動させた。1年次の「キャリアデザイン基礎・I」では、社会人との対話を行うワークショップ型の「ハタモク」を導入し、前期2回、後期1回実施した。社会人との対話を通して学生の話す力と自己効力感を高める効果が認められ、社会人イメージもポジティブなものに変化することで、その後の学習姿勢や大学生活の充実を通して将来のキャリアを考える機会となった。2年次の「キャリアデザインII・A」は、地域社会や地域で活動する社会人との交流などを含め、毎回グループ討議やワークを多く取り入れたアクティブラーニングによる自己表現力を高める内容となっている。3年次（4年次）では就職環境の理解と活動・面接対策等を指導する実践編「キャリアデザインB・C」を配置している。また、2・3年次を対象に専門科目として「インターンシップ」を配置し、平成25年度は25名が参加し、最終回では1,2年生を対象に報告会を行った。

8-6 卒業生の進路 (平成25年度)

卒業生数		内 訳						
		就 職 希 望 者			進学	アルバイト	帰国・結婚	その他
		内定者	活動中	計				
男性	54	39(83%)	8(17%)	47(100%)	2	2	0	3
女性	36	18(86%)	3(14%)	21(100%)	5	3	4	3
合計	90	57(84%)	11(16%)	68(100%)	7	5	4	6
学科人数	就職希望者			内 定 企 業 名 ・ 進 学 校 名				
	内定	活動	計					
総合経営 40	26 (84%)	5 (16%)	31	建設：住友林業ホームエンジニアリング(株)、(株)翔陽 製造：カゴメ(株)、(株)メタルワン・スチールサービス、ナカ工業(株)、(株)ハウホウ、アンファ ー(株)、トーイン(株) 電気・ガス：東京ガスオールワンサービス(株) 情報・通信：日本企画(株)、(株)リードオフネット、(株)アスカ、ヴィステックネットENT(株)、 (株)アイエスエフネットケア 運輸・郵便：国際自動車(株) 卸売・小売：(株)銀座山形屋、(株)ファイブフォックス、(株)三和エナジー、(株)マツモトキヨ シ、(株)トラスト、(株)クロスカンパニー、ヤバネススポーツ(株)、ヒロチー商事(株) (株)小泉東関東(2)、龍商事(株)、(株)東京カレント(2)、(株)オカムラホーム、ネッ ツトヨタつくば(株)、(株)ホンダベルノ市川、(有)ケー・イー・アイ、(株)エル・ワ イ産業、(有)佐藤新聞舗、(株)ビッグアイ 不動産：(株)COCOCOMUPA 専門・技術サービス：(株)エリアフォース 宿泊・飲食サービス：セブン&アイフードシステムズ(株)、(有)割烹樹さき、(株)ベストライダ ル、(株)モンテローザ、(株)ミルクークレーブ 生活関連サービス・娯楽：(株)アムズプロジェクト、(株)リラク、(株)N' STYLE-PRO 医療・福祉：(株)ユニマットそよ風、プレジールヴィラ市川 国分土地建物(株)、カルミアデ ンタルクリニック、社会福祉法人市川翔裕園、医療法人伯鳳会白髭橋病院 その他サービス：(株)プロバイドジャパン、(株)ネットワークサービス(2)、(株)セコムジャス ティック、東洋解体工業(株)、(株)オスカーインターナショナル・エージェ ンシー 公務：印西地区消防組合 進学（専門学校）：日本工科、松本医療、東京スクールオブビジネス、日本福祉教育、東 京福祉教育（3）				
人間心理 20	10 (77%)	3 (23%)	13					
総合文化 30	21 (88%)	3 (12%)	24					

9. 学生のクラブ・同好会活動等

学生のクラブ・同好会活動は以下のとおりである。

平成 25 年 5 月現在

体育系クラブ	人数	文化系クラブ	人数
硬式野球	50	アーティストック (美術)	14
バスケットボール	19	軽音楽	24
バドミントン	20	管楽アンサンブル (WEL 響)	4
フットサル	11	食文化研究会 (SWEETS)	6
ミニテニス	5	演劇	11
陸上競技	6	気晴らし娯楽演芸研究会 (ENTERTAINMENT)	12
パワーリフティング	5	書道	7
計	116 人	計	78 人

<同好会>

落語・お笑い研究会、音楽研究、エクササイズ

小規模大学であるため、団体数は少ないが、主に硬式野球部・パワーリフティング部・陸上競技部・バドミントン部の大会出場での活躍が目立った。

特に、パワーリフティング部においては、男女ともに世界大会へ出場し、女子は 43kg 級で優勝という輝かしい成績を残し、「日本橋女学館岩山スポーツ特別賞」が授与された。また、陸上競技部においては、女子 1 名がその優秀な成績から「学長賞」を授与された。硬式野球部は 3 部リーグから 2 部リーグへの昇格を果たした。

○柏学祭について

「We Make You Smile」をテーマとして、10 月 27 日（日）に開催された。残念ながら 10 月 26 日（土）は台風のため中止となり、いくつかの企画は実施されなかったが、芸能人を招いたお笑いライブや柏学祭実行委員会企画をはじめとして、様々な団体が多彩な企画や展示を行い、活気のある大学祭となった。また、柏学祭の活性化を目的として平成 24 年度に設けられた顕彰制度では、来場者の投票により上位 3 団体が表彰され、副賞として東京ディズニーリゾートのチケットが贈られた。

10. 社会的活動

10-1 生涯学習支援センター

・市民公開講座の実施

次のような内容の12講座を開講し、220人の受講者があった。

平成25年度 公開講座一覧表

開催日	講座名	担当教員	受講人数
9/24(火)	征韓論はなぜ必要とされたのか	瀧川 修吾	31
10/2、9(水)	谷崎潤一郎『蓼喰ふ虫』を読む	佐々木 さよ	10
10/7、21、11/11、18(月)	原文で読むドイツ文学	阿部 雄一	8
10/10、17、24、31(木)	モーツァルトの歌劇「魔笛」をたのしむ	飯森 豊水	18
10/15(火)	仏陀の物語と世界遺産サーンチー仏塔の彫刻群	杉木 恒彦	13
10/22、29、11/5、12、19、26(火)	若さと健康をサポートします！ーミニテニスー	高橋 早苗	22
10/29、11/5(火)	カウンセリング心理学を日常生活に生かす	佐々木 由利子	19
11/7(木)	伊勢神宮の成立	太田 英比古	48
11/8、15(金)	太宰治「魚服記」を読むー悲しいお伽噺ー	柳沢 孝子	17
11/19、26(火)	『更級日記』鑑賞～上洛の旅の記に見るみずみずしい筆力	服部 一枝	21
12/11(水)	“差別”の精神分析	鳥越 淳一	7
12/14(土)	人間のこころの発達と世代間コミュニケーション	寺本 妙子	6

10-2 大学コンソーシアム東葛

柏市の呼びかけにより発足した「大学コンソーシアム柏」は、平成23年9月から「大学コンソーシアム東葛」と改称し、地域と大学の連帯による知的資源を生かした街づくりを推進している。また、東葛地域の学生が大学や専門を超えて交流し、地域とフィールドに学びあい、地域、行政、大学と連携し、まちづくりに取り組むことを目的に学生ワークショップを実施している。

10-3 図書館関係

・ほぼ月らいぶ

図書館主催の無料コンサート「ほぼ月らいぶ」の今年度の開催回数は3回。通算31回を数えた。定例となった柏市立柏高校吹奏楽部の演奏、古楽器によるバロック音楽演奏などに加え、新企画の津軽三味線のライブを行った（津軽三味線コンクールで女性初の日本一に輝いた土生みさお氏。テレビで氏の本学での公演予定が流れ、予定人数を超える多数の申し込みを受ける盛況であった）。このライブでは、学生もさまざまな形で参加した（アド制作の得意な学生による販促用のポスター作り、書道部による舞台上の書によるオブジェ作成、当日の舞台での軽音楽部の学生による三味線体験披露など）。内容は以下のとおりである。

No.	タイトル	開催日	動員人数
その29	市立柏高校吹奏学部フレッシュコンサート	2013年7月20日(土) 14:00~16:00	135
その30	土生みさお 津軽三味線らいぶ	2013年9月21日(土) 14:00~16:00	181
その31	バロック音楽の国際都市 ロンドンゆかりの作曲家たち	2014年2月23日(土) 14:00~16:00	131

・ビブリオバトル2013

2回目を迎える「ビブリオバトル2013」を大学祭2日目に図書館内で開催。教員や学生、一般来聴者40名の観客を前に、挑戦者(バトラー)5名(2年生1名、3年生3名、4年生は1名)が熱戦をくり広げた。観客全員による投票の結果、チャンピオンには総合文化学科4年の光野雅美が選ばれた。光野は2週間後の「2013年柏市立図書館・市内四大学図書館ビブリオバトル」に本学代表として出場し、奨励賞を得た。

・平成25年度柏市立図書館・市内大学図書館合同企画

柏市立図書館と柏市内4大学(本学および二松学舎大学・麗澤大学・東京大学)の各図書館による合同企画展・講演会の一環として、展示・講演会を企画。今年度の共通テーマは『論語』。本学では、渋沢栄一財団の協力を仰ぎ、タイトルを『『論語』と渋沢栄一:その足跡と精神』とし、財団提供の栄一ゆかりの品や年表等の展示を行った。講演会は、『『論語』と渋沢栄一』と題して、長沼友兄氏(淑徳大学・長谷川仏教文化研究所)、古山英二氏(本学名誉教授)を講師に、大学祭1日目に行う予定だったが、当日は台風のために中止となった。

・摘水軒コレクションの展示(図書館内展示台)

肉筆浮世絵などのコレクションで名高い柏市の文化財団「摘水軒記念文化振興財団」の厚意により、4年前から貴重なコレクションの数々を図書館展示台で公開している。本年度の展示は、不定期で、内容は以下のとおりである。

展示月	展示内容(作者等/作品名)
平成25年9月・10月	川又常正 / 黄石公見立若衆美人図
平成25年11月・12月	岸駒 / 虎滝図(双幅の左幅)
平成26年1月・2月	鶴澤探索 / 群馬図
平成26年3月・4月	岡本秋暉 / 蟠桃飛鶴図

10-4 日本橋学館大学協力会

<「日本橋学館大学協力会」は、本学学生の生活を支える柏地域の人々を中心に、不動産業ならびに仲介業、商店主、商工主、柏地域の住民(企業)の方々に本学ならびに本学学生の支援、指導をお願いする目的で、柏商工会議所の後援により設立された。>

10-5 出張授業・講義体験

中学生・高校生を対象に、その学校に本学教員が出向き大学での学習の楽しさ、本学の教育内容の充実と本学の良さを伝えている。

また、オープンキャンパス等でも体験講義を実施している。

10-6 地域における活動

千葉県、柏市、印西市、白井市、北区、墨田区、愛知県における、各種委員会活動等に、本学教員が講師・委員として参加した。

1 1. 募集活動

1 1-1 「大学説明会」の開催

開催日	開催時間	開催場所	参加高校
6月14日(金)	14:30~16:00	赤坂エクセルホテル東急	12校
6月20日(木)	14:30~16:00	三井ガーデンホテル柏	9校
10月10日(木)	14:30~16:00	アルカディア市ヶ谷	7校
10月18日(金)	14:30~16:00	京葉銀行文化プラザ	5校

1 1-2 学長による高等学校訪問

千葉県	柏市立柏高校
東京都	富士見丘学園・関東国際・品川エトワール・東洋女子・豊島学院高校ほか

1 1-3 本学専任教員による高等学校訪問

各教員が担当する高等学校を訪問した。訪問地区は次の通りである。

千葉県	大学を中心とした東葛飾地区、総武線(市川や浦安)地域
東京都	23区の特に千葉寄りの地域
茨城県	水戸市以南の地域
埼玉県	さいたま市より千葉県寄りの地域

1 1-4 オープンキャンパスの開催

オープンキャンパス参加者集計結果

開催日程および参加者数(受験対象者はリピーターを除く)

開催日	参加者(人数)	受験対象者(人数) リピーター除く
3月23日(土)	11	11
4月20日(土)	1	0
4月27日(土)	5	4
5月11日(土)	10	8
5月25日(土)	9	8
6月1日(土)	6	5
6月22日(土)	25	19
7月13日(土)	12	7
7月31日(水)	18	10
8月10日(土)	27	15
8月13日(土)	36	18
8月24日(土)	13	6
8月31日(土)	27	10
9月14日(土)	20	10
9月28日(土)	15	7
10月12日(土)	8	2
10月27日(土)	16	4

11月16日(土)	10	2
12月14日(日)	15	12
1月11日(土)	2	2
合計	286	160

受験対象者（リピーター除く）男女比

性別	人数	割合
男	100	62.5%
女	60	37.5%
計	160	100.0%

全体参加者の分類

分類	人数	割合(%)	分類	人数	割合(%)
3年	152	73.8	留学生	3	1.5
2年	38	18.4	その他	5	2.4
1年	8	3.9	合計	206	100.0

・県別参加者数

受験対象参加者（リピーター除く）千葉県62名（全体39%）が最も多い。続いて参加者数順は東京都・茨城県・埼玉県となり、次の通りである。東京都49名（全体31%）、茨城県22名（全体14%）、埼玉県12名（全体8%）。他県については、神奈川県5名、宮城県2名、静岡県2名、栃木県1名、福島県1名、新潟県1名、その他3名となっている。

単位：人

山形県	0	宮城県	2	福島県	1	群馬県	0
栃木県	1	茨城県	22	千葉県	62	東京都	49
埼玉県	12	神奈川県	5	山梨県	0	静岡県	2
長野県	0	新潟県	1	その他	3	合計	160

・通学過程の分類

受験対象参加者（リピーター除く）全日制121名（全体76%）。通信制39名（全体24%）。

単位：人

全日制	121	通信制	39	合計	160
-----	-----	-----	----	----	-----

11-5 入学試験の実施

AO入試	8回	平成25年9月7日～年度末
推薦入試	6回	平成25年11月2日～年度末
一般入試	3回	平成26年2月4日～年度末
特待生入試	1回	平成25年11月2日～年度末
留学生入試	2回	平成25年11月30日～年度末
編入学入試	0回	平成25年10月5日～年度末
訪問入試	0回	平成25年9月7日～年度末

1 2. 管理運営

本学は緑に囲まれた閑静な住宅地内に位置する。この地域は住居専用地域に指定されているため、高さ 10m以上の建物が建てられないという制限等がある。よって設備の拡充には制約があるため、校舎面積は十分に余裕があるとは言えないが、大学設置基準上必要とされる面積は校地・校舎ともに満たしている。

1 2-1 校地、校舎等の面積

比較 対象	収容 定員	校 地			校 舎		
		基準面積	現有面積	差異	基準面積	現有面積	差異
日本橋学館大学	780 人	9,300 m ²	25,783 m ²	16,483 m ²	5,388 m ²	8,079 m ²	2,691 m ²

※校地・校舎ともすべて専用

1 2-2 講義室、演習室、学生自習室等の概要

建物区分(面積)		用 途	※ () 内は部屋数等
校 舎	1号館 (4,159 m ²)	大教室(マルチメディアルーム)、一般教室(9)、ゼミ室(3)、CALL 教室(PC34台)、コンピュータ教室(4教室・PC120台)、和室、学習指導室、教職課程資料室、キャリアセンター資料室(PC2台)、応接室、学長室、教員研究室(30)、事務局(総務課、会計課、教務課、学生支援課、アドミッションオフィス、キャリアセンター、印刷室)、会議室(2) 学生ホール(106 m ²)、学生食堂(345 m ²)、学生会室、用務員室	
	2号館 (1,903 m ²)	大教室(センターホール)、中教室(3)、一般教室(4)、女子更衣室、非常勤講師控室、生涯学習センター、教員研究室(1)、保健室、学生相談室	
	図書館棟 (2,005 m ²)	図書館事務室、学習図書閲覧室、情報コーナー(PC10台)、応接室、書庫、こもれびホール(163 m ²)、教室(2)、日本橋学研究所、教員研究室(9)、教員サロン、名誉教授室	
	警備室(12 m ²)	受付	
計 8,079 m ²			
体育関連施設(1,319 m ²)		体育館(1,037 m ²)、トレーニングルーム(222 m ²)、管理室、シャワー室 *別棟の男子更衣室(60 m ²) 含む	

12-3 管理運営体制

